

令和5年度 学校評価（自己評価書・学校関係者評価書）

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 ★学校関係者評価を受けて
「学ぶ喜び」を実感させ、主体的・対話的な授業づくりを基盤とした確かな学力を育成する	基礎基本の定着	・「指導スタンダード」を徹底し、学習規律の定着を図る。 ・「やればできる」を実感させ、基礎学力の向上を図るために全校漢字、算数チャレンジテストを計画的に実施する。	A	A	・全校体制での学習規律の徹底を推進していく必要がある。 ・小テストやチャレンジテストを行うことで、漢字や計算の基礎学力を定着させることができた。 ・子どもたちの興味関心から課題を見出し、主体的に学習に取り組めるような授業づくりができた。 ・子どもの話を聞く力の育成が不十分だった。	A	・各クラス少人数のため、一人一人をよく見て、一人一人に合った教育が行われることを期待している。 ・人の話を聞ける子どもの育成に力を入れていってほしい。	・「学習のやくそく」について、教職員の共通理解を図り、徹底していく。 ・学ぶ喜びが味わえる授業づくりを目ざし、互いの授業を参観し合い、授業改善することで、質の向上を図る。
	授業づくり	・ねらいを明確にし、見通しをもって学習に取り組み、振り返りで新たな課題を発見できる、学ぶ喜びを味わうことのできる授業づくりに努める。	B					
たくましい心を育成し、温かな気持ちで関わり合える学校・学級づくりに努める	居場所づくりと絆づくりの充実	・自らすすんで、挨拶ができる子どもを育成する。 ・計画的な道徳授業の実践等を通して、自己肯定感を高めるとともに、自己有用感を高める。	B	B	・挨拶は、キャンペーン時は意欲的にできたが、日常生活では十分に意識が向かない子が多かった。 ・学校の教育活動全般で、友達のよいところを伝え合う活動を行ったことで、自分や友達のよさに気づき、自己肯定感を高めたり、友達のよさに気づく目が育ったりした。	A	・地域からもはたらきかけ、挨拶が行き交う校区にしていきたい。 ・授業参観やアンケート結果から、穏やかで楽しそうな学校生活がうかがえる。	・教職員が挨拶や掃除などの手本となる行動を心がけ、根気よく声かけする。 ・たてわり活動におけるそれぞれの学年に応じた目標を明確にする。
	集団活動の活性化	・たてわり活動を中心とした特別活動の充実を図り、共感の人間関係を構築し、思いやりと感謝の心を育成する。	A					
安全で安心できる教育環境づくりに最善を尽くす	いじめや不登校の未然防止と早期対応	・全ての教職員で全ての子どもを見守り、いじめ・不登校・虐待・問題行動に対して、組織として早期発見に努め、未然に防ぐ学校・学級づくりに努める。	B	A	・休み時間も子どもたちと過ごす心がけたことで、子どもたちのトラブルにすばやく対応することができた。 ・全校で系統的に、情報モラルやメディアの使い方の授業を実施した。場に応じた適切な判断ができ、学年に応じたメディアの活用能力を高めることができた。	A	・いじめや不登校については、未然防止に十分気を配ってほしい。 ・安全や災害に強い校区を目ざし、地域を巻き込んで「自分の命は自分で守る」ことができる力を育成して欲しい。	・子どもの様子を注意深く見守る。そして、子どものよさや指導すべき点を全教職員が鋭い感覚で一人一人の子どもに返していけるよう、現職研修などの機会を設け、研修していく。 ・命の教育の内容の充実を図る。
	安全教育と情報モラル教育の充実	・交通安全教育・防災教育・避難訓練などの体験活動を通し、「自分の命は自分で守る」ことができる力を育成する。 ・情報モラル教育を計画的に実施し、場面に応じた適切な判断ができるよう、子どもの情報活用能力を高める。	A					
近隣小・中・地域との連携を深め、地域・保護者からの信頼と協力が得られるよう努める	小中連携教育の推進	・小中一貫（高豊中学校区）・3小連携（富士見・高根・豊南）による効果的な教育を進める。	A	A	・英語、理科、音楽などで、教科担任制を取り入れたことで、子どもたちは、より専門的な授業を受けることができた。 ・4校合同で研修を行ったことで、教員の力量を高めることができた。 ・学習面や生活面で困ったときには、家庭の協力を仰ぐなど、家庭と学校で連携して教育活動を行うことができた。	A	・小学校と保育園との交流を、子どもどうし、職員どうしでもっと推進してほしい。 ・来年度は、実際に災害が起きたときのことを想定して小学校と保育園の合同避難訓練を実施するよう要望する。	・小中連携のメリットを共通理解し、「くろしおクルーズマップ」を活用した取り組みを進めていく。 ・地域の教育力を活用し、地域の人・こと・ものを系統立てて学べるよう、カリキュラムを整備する。
	地域に開かれた教育活動の推進	・家庭・地域との連携・協力を密にし、地域に開かれた魅力ある教育活動を展開することで、信頼される学校づくりを推進する。	A					
教職員が心身ともに健康で、教育のプロとしての資質向上、働き方改革への高い意識をもち、チームとして学校を支える職場づくりに努める	授業力と資質向上	・学び合い、高め合う教職員集団を目ざし、力量向上のための研修を計画的に実施する。	B	B	・授業研究会では、授業案の立案の時から職員どうしで相談しながら進めることで、互いの力量向上につながった。 ・わからないことや困ったときに相談しやすい雰囲気があり、とても助かっていると考える職員が多い。 ・PTAや地域のかたがたに協力していただき、環境整備や行事の準備等を進めることができ、大変感謝している。 ・職員作業が多く、子どもと向き合う時間の確保ができなかった。	A	・小さな学校ならではの温かさを感じている。今後も、チームとして教職員が同じ方向を向いて教育して欲しい。 ・教職員の負担が軽減され、子どもたちのために、教職員が心身ともに健康な状態で教育に励んでもらえるよう願う。	・教職員からの意見をもとに、必要と思われる現職研修を計画的に行う。互いの授業を参観し合い、協議するなど、授業力の向上に力を入れていく。 ・負担軽減の声が大きくなる中、子どもにとって真に大切なものを見極め、吟味したうえで働き方改革を進めていく。
	働き方改革の継続と推進	・何でも相談できる温かい職場づくりに努めるとともに、行事のもち方の工夫や会議の効率化など、個々のタイムマネジメントへの意識の向上を図る。 ・「チーム豊南」の協働体制を進め、教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保に努める。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】